

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲15-5
自己評価作成日	平成23年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘！
山や川、田んぼなどの豊かな自然に囲まれ、四季の移ろいを体いっぴいに感じられる恵まれた土地にあります。ともに喜び支えあう事を目標に、いつまでもその人らしく生きられるよう、暖かな雰囲気作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同法人の施設との連携や協力体制が整っており、利用者とデイサービス利用者との交流が行われている。地元の小中学校の運動会や文化祭などに出かけたり、中学生の体験学習を受け入れるなど学校との交流も盛んである。また、花見や公園などに車で出かける機会を多く設け、外食も利用者の希望を取り入れながら楽しく行っている。協力医とも24時間体制で連携を取り、利用者が安心して生活できるよう体制が構築されている。職員は幅広い年齢層で構成されており、お互いに学び合い協力し合って日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
(ユニット名)	ずいほうそう1階
記入者(管理者)	
氏名	渡部 賢之
評価完了日	平成 23 年 1 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 基本理念をもとに、環境と同様、癒される関係と空間作り心がけている。また定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用し情報の共有や職員間の意識統一を図るようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員全員で理念を共有し、利用者が安心して安定した生活が送れるよう取り組まれている。定期的なミーティングで理念を振り返るなど職員全員の意識を統一し、日々のケアの中で理念が実践されるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れ、夏祭りなども地域住民参加型で行っている。また小中学校の運動会や集会、文化祭など出来るだけ調整し参加している。</p> <p>(外部評価) 地元小学校のいちご摘み集会や、やきいも集会に招待され交流を楽しんだり、小、中学校の運動会を見に行っている。地方祭には獅子舞やおみこしが入ってくる。また、近くのお寺の住職に説法をしてもらっている。隣接の施設と合同で夏祭りを催し、地域住民と交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 災害などの際には緊急避難場所としての役割があると考えている。また地域住民や利用者家族が気軽に来荘できる雰囲気心がけ、介護相談や施設見学にも応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 内容はまだまだ不十分であり、2ヶ月に1回の定期的な実施とはなっていない。あまり形式にとらわれず柔軟に取り組む事により、昨年度は年6回開催する事が出来、今年度もこれまでに4回開催している。	
			(外部評価) 年間に6回開催しており、市の担当職員などの出席を得てホームから利用者状況、活動状況、防災などについて報告を行い出席者から助言や要望を聞き取っている。議題によって地元の消防団にも出席してもらっている。	利用者家族や民生委員、自治会長、学校の先生など地域の様々な立場の方に運営推進会議の意義を理解し、出席してもらえるよう今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加や、1月ごとの報告だけでなく、困難事例の相談や、施設の現状などについても話し合い、協力できるような態勢が出来ている。	
			(外部評価) 市担当者とは普段から困難事例などの相談などを行っており、気軽に連絡がとれる関係ができています。運営推進会議にも参加してもらい意見や情報交換を行っている。また、生活保護受給者について生活福祉課とも連携を密に取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない事により起こる事故についても日ごろから家族に十分に説明し、理解を得るようにしている。また、言葉での拘束となりうる事も十分注意している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる言動を理解して、支援に当たっている。日中は施錠をせず、外出傾向がある場合は職員がさりげなく付き添い、自由な暮らしができるよう支援している。地域の方が外出者の様子を知らせてくれることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間のトラブルについても、早期発見、対処できるように注意している。また外泊等のさいには入居者の心身の状態の変化に特に注意するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業活用者も1名おり、成年後見人制度への移行についても、市役所担当職員、包括支援センター職員とも何回か話し合いをしている。またその内容や必要性等についても職員に説明している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の契約時には十分時間をとり説明し理解を得るようにしている。また入居についての疑問点や今後の意向についても聞き取るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見は日々の生活の中から汲み取るよう心がけ、家族来荘時に積極的に話すようにしている。また第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設とともに設置しており、定期的に会議を実施している。苦情・相談窓口の事は契約時説明している。 (外部評価) 全体的に家族の面会は多く、その際に生活の様子や健康状態を伝えたり、要望を聴き取るように努めている。遠隔地の家族には、生活の様子や健康状態などを連絡している。また、ホーム内と第三者機関に相談窓口を設け、重要事項説明書に明記し利用案内時に説明をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的にケア会議、食事会等を行い、その時間を利用して情報の共有や職員の意識統一を図るようにし、同時に職員の意見や提案も聞くようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員は、管理者や介護主任とコミュニケーションを図り、意見交換を十分行っている。管理者は職員から聞き取った意見を代表者に伝え、運営の質の向上に反映している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の勤務状況や心身の状況の的確な把握に努め、個々の向上、資格取得も積極的に行うようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 当事業所では、職員全員で考え実行していく事を基本にしており、管理者及び有資格者については、各場面において、スーパーバイザーとなり、適確な判断、助言が出来るようにしている。研修については施設内研修が中心となっており、外部研修にはなかなか出席できていない。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 個人的な交流の機会やネットワークはあるが、職員間の勉強会や相互訪問とはなっていない。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人及び家族、他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、出来るだけ早急に面接調査を行い、信頼関係と適確なニーズの把握、分析に努めるようにしている。また利用契約となる場合には、本人、家族の意向を考慮し、個々の生活特性を把握し、アセスメントを行うようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、出来るだけ早急に面接調査を行い、信頼関係と適確なニーズの把握、分析に努めるようにしている。また利用契約となる場合には、本人、家族の意向を考慮し、個々の生活特性を把握し、アセスメントを行うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所から相談があった場合は、当事業所の利用が可能、不可能に関わらず相談や施設見学は受け入れ、必要によっては他事業所や他サービスの紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切に知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には出来るだけ時間を作っていただき、近況を報告し、また介護計画を説明し、ご家族からの意見や要望を確認し、反映できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用契約の際、家族及び身元引受人の同意を得て、家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。また誰でも気軽に来荘できる雰囲気作りを心がけている。 (外部評価) 地域住民には馴染みの人が多く、散歩時にはよく声をかけてくれる。隣接する同法人のデイサービスの利用者と交流を楽しんだり、定期的に近くの住職が説法を訪ねてくれる。利用者や職員のほとんどが地元住民なので、馴染みのある環境の中で生活ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し、良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが生じそうになった場合には、誤解やしこりが生じないように速やかに職員が介入するようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される場合でも、その利用者の適所の紹介や関係機関との調整を行い、また退居後も本人、家族が気軽に相談できる関係作りを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切に知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いを把握するよう努めている。家族からは機会あるごとに、日常の生活面での要望や気づきを聴き取っている。得た情報は、職員間で共有している。また、コミュニケーションが困難な利用者については、表情などから読み取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切に知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、出来ない事を減らし、出来る事を少しずつでも増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 定期的にケア会議を設けており、職員間の意見交換、情報交換が出来るようにしている。また、ケアチェック表を作成し、いつでもサービス計画書を確認できるようにしており、定期的に見直しも行っている。</p> <p>(外部評価) 家族の意見や要望を聞き取り、全職員で協議をして計画を作成している。介護計画に沿ったサービスの提供の確認もケアチェック表でされており、モニタリングも適切に行われている。定期的な見直しを行っているが、利用者の状態の変化により随時見直しも行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個々のフェイス記録には些細な事まで記録する様にし、申し送りノートには要点をまとめ記録し、職員個人個人がチェックするようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 個々のニーズの的確な把握に努め、職員間で都度話し合うようにしている。また同一法人の他事業所と合同の話し合いの機会を持ったり職員間、利用者間の交流も図るようにしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 母体施設はもとより、駐在所、市役所にも入居者名簿を提供し協力を得られるよう要請している。また、地元消防団にも出席してもらい防火、避難訓練などを実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>各職種が協力し、異常の早期発見、疾病の予防に努 め、早期に主治医の診察が受けられるよう心掛けてい る。また以前からの主治医がいる場合にはその病院を 継続して受診し、症状に応じて心療内科、精神科の受 診も行い指導を受けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ほとんどの利用者が協力病院である地元の病院の医師 がかかりつけ医であり、定期的な往診を受けている。 協力病院とは24時間体制で連携を取っており、全面 的に協力してくれる。また、職員に看護師が配置され ており、日常の健康管理もされている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>看護職員を常勤職員として配置しており、また各職種 が協力し、異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期 に主治医の診察が受けられるよう心掛けている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入居者が入院した場合でも、面会、様子観察を頻回に 行うようにし、適時、家族、医療スタッフ、主治医と の話し合いも行うようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>特変があればその都度家族に連絡し、早めに病院受診 を行うようにしている。当事業所では、様態に応じて 医師を交えてカンファレンスを行うようにしている が、看護職員も1名しかおらず、現時点でのターミナル ケアは不可能な事が多いと思う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に「看取りの指針」を説明し同意を得ている。 さらに、状態の変化に応じて家族と相談を行ってい る。必要に応じて医師や看護師、職員と連携を密に取 り、話し合いを重ねながら終末期のケアに対応してい る。また、管理者は職員に対する精神的なケアを行う よう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けるようにしている。また、必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。カンファレンスの時には個々の対処法を看護師が具体的に指導するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 瑞鳳荘、防災マニュアルを作成している。また、年2回防災、避難訓練を実施している。今年度は、平成23年1月14日に今治市消防団玉川方面隊第2分団畑寺班立会いのもと避難訓練と施設内消防設備点検を行う予定である。 (外部評価) 年2回のうち1回は夜間想定での避難訓練を、同法人の施設と合同で行っている。地域の消防団やそのOBの協力も得ることができ、避難場所や備蓄品も確保できている。ホーム独自の連絡網と、隣接する同法人の施設を含めた緊急連絡網を作成している。地震対策として家具などの固定をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の生活歴などを十分に把握し、個々の状態に応じたケア、対応を実施している。また、職員間での介護等での相談、助言、忠告は都度実施するようにしている。個人情報の取り扱いについても、日頃より十分に注意し、採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 個人情報の保護の重要性をスタッフ全員が認識している。個人情報の取り扱いについて、家族と同意書を交わしている。同性による介護を基本としており、特にトイレや入浴の介助には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の生活リズムにあわせ、出来る限り自由な時間の入浴を実施している。また、買い物や外食の機会も多くとるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所として一応日単位、週単位のスケジュールはあるが、日々の業務の遂行より、入居者のペースを優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒にその日着る服を選び用意するようにしている。理容、美容についてはライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ等が受けられるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員（栄養士を交え）と入居者が何を食べたいか話し合い献立を立てている。職員、入居者が一緒に食事をし会話を楽しみながらゆったりとした食事摂取の時間と、自主的な下膳を心掛けている。 (外部評価) 法人内の栄養士が、栄養バランスに配慮して献立を立てている。利用者の機能に応じて刻み食やお粥を準備しており、全員がゆったりと楽しそうな雰囲気の中で食事ができている。ユニットで調理を分業しており効率よく準備されている。また、外食に出かけることもあり、利用者の楽しみの1つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者のその日の状態に応じて、食事の形態を変更し提供できるようにしている。また、食事、水分摂取表にてチェックし記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、寝る前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い、異常があれば早期に歯科受診をするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、失禁前のトイレ誘導を実施している。また、ポータブルトイレ使用者も日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄状況が記載されており、トイレ誘導など状態に応じた支援が行われている。水分補給にも気を付けており、お茶を利用者ごとのボトルに入れて自由に水分補給ができるよう準備している。水分摂取量の少ない利用者には、声かけをして水分摂取を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や運動はもとより、主治医と十分相談し、内服薬の正確な服用や薬剤の副作用にも十分注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日や時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し好きな時間に入浴が出来るようにしている。入浴拒否が多い方についても随時声かけし入浴を勧めている。	
			(外部評価) 基本的には利用者の好みの時間帯に合わせて入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者に対しては、タイミングを見て声かけしたり、職員が交代して誘うなど工夫をしている。利用者同士の声かけもあり、ゆったりとした気分で入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごしていただくよう促し、可能な限り戸外での活動や散歩なども実施している。また自分のペースで生活が送れる様、昼の間（職員室）も開放している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理、投薬を行い、介護職員が内服確認をしている。また、職員全員に副作用など説明しており、特変があれば速やかに看護師、医師に相談するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯や掃除は共に行うにし、菜園での農作業なども出来る限り手伝ってもらうようにしている。また、職員指導による小物制作クラブもある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などは行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事にも出かけている。	
			(外部評価) 気候がいい時期には、ホームの庭に出ておやつを食べたり、日向ぼっこを楽しんでいる。ホームの周辺の安全な散歩道を車いす利用者と共に散歩し、気分転換を図っている。また、畑では季節の野菜が作られており職員と共に楽しみながら世話をしている。花見などの外出もよく行いみんなで楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は小額としているが買い物の際などは預かり金を本人に手渡し支払ってもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロアー内に公衆電話がありいつでも利用できるようにしており、入居者からの要請があれば都度ダイヤルの介助も行っている。また、ハガキや便箋の購入や投函手渡しも都度行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスにはカーテンをつけている。（以前は手作りの暖簾であったが消防署の指導により現在は防炎の物に取り替えている）またフロア内には花壇の花を生けていたり、入居者手作りの小物を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価) 広い居間からは田畑と美しい山並みを見渡せ、四季折々の移り変わりを感じ取ることができる。ホーム内には観葉植物や花が飾られ、季節に応じた飾り付けがされている。また、加湿器が設置され、湿度や温度の管理もされており快適に過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人になれたり、少人数の集まり場所としては、フロア内にソファを置いてある。また職員室は昼の部屋であり、自由に開放しているのでみんなの集いの場所となっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 長年使い慣れているダンスやソファ、家族の位牌、仏壇だけでなく、動物の縫いぐるみなど自由に持ち込んでもらっている。</p> <p>(外部評価) 各居室の入り口には分かりやすく氏名が書かれている。ベットや洗面台が備え付けられ、各自の好みに合わせて、花を飾ったり、手作りの作品や写真、お気に入りの置物などを置き、利用者それぞれに合った個性的な居室空間づくりがされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保の為に手すりが設置してあり、必要以上の物を置かないようにしている。また屋外に庭園、菜園があり、ガーデニングや野菜作りを皆で行っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲15-5
自己評価作成日	平成23年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘！
山や川、田んぼなどの豊かな自然に囲まれ、四季の移ろいを体いっぴいに感じられる恵まれた土地にあります。ともに喜び支えあう事を目標に、いつまでもその人らしく生きられるよう、暖かな雰囲気作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同法人の施設との連携や協力体制が整っており、利用者とデイサービス利用者との交流が行われている。地元の小中学校の運動会や文化祭などに出かけたり、中学生の体験学習を受け入れるなど学校との交流も盛んである。また、花見や公園などに車で出かける機会を多く設け、外食も利用者の希望を取り入れながら楽しく行っている。協力医とも24時間体制で連携を取り、利用者が安心して生活できるよう体制が構築されている。職員は幅広い年齢層で構成されており、お互いに学び合い協力し合って日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう2階

記入者(管理者)

氏名 渡部 賢之

評価完了日 平成 23 年 1 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 基本理念をもとに、環境と同様、癒される関係と空間作り心がけている。また定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用し情報の共有や職員間の意識統一を図るようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員全員で理念を共有し、利用者が安心して安定した生活が送れるよう取り組まれている。定期的なミーティングで理念を振り返るなど職員全員の意識を統一し、日々のケアの中で理念が実践されるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れ、夏祭りなども地域住民参加型で行っている。また小中学校の運動会や集会、文化祭など出来るだけ調整し参加している。</p> <p>(外部評価) 地元小学校のいちご摘み集会や、やきいも集会に招待され交流を楽しんだり、小、中学校の運動会を見に行っている。地方祭には獅子舞やおみこしが入ってくる。また、近くのお寺の住職に説法をしてもらっている。隣接の施設と合同で夏祭りを催し、地域住民と交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 災害などの際には緊急避難場所としての役割があると考えている。また地域住民や利用者家族が気軽に来荘できる雰囲気心がけ、介護相談や施設見学にも応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 内容はまだまだ不十分であり、2ヶ月に1回の定期的な実施とはなっていない。あまり形式にとらわれず柔軟に取り組む事により、昨年度は年6回開催する事が出来、今年度もこれまでに4回開催している。	
			(外部評価) 年間に6回開催しており、市の担当職員などの出席を得てホームから利用者状況、活動状況、防災などについて報告を行い出席者から助言や要望を聞き取っている。議題によって地元の消防団にも出席してもらっている。	利用者家族や民生委員、自治会長、学校の先生など地域の様々な立場の方に運営推進会議の意義を理解し、出席してもらえるよう今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加や、1月ごとの報告だけでなく、困難事例の相談や、施設の現状などについても話し合い、協力できるような態勢が出来ている。	
			(外部評価) 市担当者とは普段から困難事例などの相談などを行っており、気軽に連絡がとれる関係ができています。運営推進会議にも参加してもらい意見や情報交換を行っている。また、生活保護受給者について生活福祉課とも連携を密に取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない事により起こる事故についても日ごろから家族に十分に説明し、理解を得るようにしている。また、言葉での拘束となりうる事も十分注意している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる言動を理解して、支援に当たっている。日中は施錠をせず、外出傾向がある場合は職員がさりげなく付き添い、自由な暮らしができるよう支援している。地域の方が外出者の様子を知らせてくれることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間のトラブルについても、早期発見、対処できるように注意している。また外泊等のさいには入居者の心身の状態の変化に特に注意するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業活用者も1名おり、成年後見人制度への移行についても、市役所担当職員、包括支援センター職員とも何回か話し合いをしている。またその内容や必要性等についても職員に説明している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の契約時には十分時間をとり説明し理解を得るようにしている。また入居についての疑問点や今後の意向についても聞き取るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見は日々の生活の中から汲み取るよう心がけ、家族来荘時に積極的に話すようにしている。また第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設とともに設置しており、定期的に会議を実施している。苦情・相談窓口の事は契約時説明している。 (外部評価) 全体的に家族の面会は多く、その際に生活の様子や健康状態を伝えたり、要望を聴き取るように努めている。遠隔地の家族には、生活の様子や健康状態などを連絡している。また、ホーム内と第三者機関に相談窓口を設け、重要事項説明書に明記し利用案内時に説明をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議、食事会等を行い、その時間を利用して情報の共有や職員の意識統一を図るようにし、同時に職員の意見や提案も聞くようにしている。 (外部評価) 職員は、管理者や介護主任とコミュニケーションを図り、意見交換を十分行っている。管理者は職員から聞き取った意見を代表者に伝え、運営の質の向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の勤務状況や心身の状況の的確な把握に努め、個々の向上、資格取得も積極的に行うようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では、職員全員で考え実行していく事を基本にしており、管理者及び有資格者については、各場面において、スーパーバイザーとなり、適確な判断、助言が出来るようにしている。研修については施設内研修が中心となっており、外部研修にはなかなか出席できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 個人的な交流の機会やネットワークはあるが、職員間の勉強会や相互訪問とはなっていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、出来るだけ早急に面接調査を行い、信頼関係と適確なニーズの把握、分析に努めるようにしている。また利用契約となる場合には、本人、家族の意向を考慮し、個々の生活特性を把握し、アセスメントを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、出来るだけ早急に面接調査を行い、信頼関係と適確なニーズの把握、分析に努めるようにしている。また利用契約となる場合には、本人、家族の意向を考慮し、個々の生活特性を把握し、アセスメントを行うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族、他事業所から相談があった場合は、当事業所の利用が可能、不可能に関わらず相談や施設見学は受け入れ、必要によっては他事業所や他サービスの紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切に知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には出来るだけ時間を作っていただき、近況を報告し、また介護計画を説明し、ご家族からの意見や要望を確認し、反映できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用契約の際、家族及び身元引受人の同意を得て、家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。また誰でも気軽に来荘できる雰囲気作りを心がけている。 (外部評価) 地域住民には馴染みの人が多く、散歩時にはよく声をかけてくれる。隣接する同法人のデイサービスの利用者と交流を楽しんだり、定期的に近くの住職が説法を訪ねてくれる。利用者や職員のほとんどが地元住民なので、馴染みのある環境の中で生活ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し、良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが生じそうになった場合には、誤解やしこりが生じないよう速やかに職員が介入するようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される場合でも、その利用者の適所の紹介や関係機関との調整を行い、また退居後も本人、家族が気軽に相談できる関係作りを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切に知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるように努力している。 (外部評価) 日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いを把握するよう努めている。家族からは機会あるごとに、日常生活面での要望や気づきを聴き取っている。得た情報は、職員間で共有している。また、コミュニケーションが困難な利用者については、表情などから読み取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切に知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、出来ない事を減らし、出来る事を少しずつでも増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を設けており、職員間の意見交換、情報交換が出来るようにしている。また、ケアチェック表を作成し、いつでもサービス計画書を確認できるようにしており、定期的に見直しも行っている。 (外部評価) 家族の意見や要望を聞き取り、全職員で協議をして計画を作成している。介護計画に沿ったサービスの提供の確認もケアチェック表でされており、モニタリングも適切に行われている。定期的な見直しを行っているが、利用者の状態の変化により随時見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイス記録には些細な事まで記録する様にし、申し送りノートには要点をまとめ記録し、職員個人個人がチェックするようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズの的確な把握に努め、職員間で都度話し合うようにしている。また同一法人の他事業所と合同の話し合いの機会を持ったり職員間、利用者間の交流も図るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 母体施設はもとより、駐在所、市役所にも入居者名簿を提供し協力を得られるよう要請している。また、地元消防団にも出席してもらい防火、避難訓練などを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 各職種が協力し、異常の早期発見、疾病の予防に努 め、早期に主治医の診察が受けられるよう心掛けてい る。また以前からの主治医がいる場合にはその病院を 継続して受診し、症状に応じて心療内科、精神科の受 診も行い指導を受けている。	
			<p>(外部評価)</p> ほとんどの利用者が協力病院である地元の病院の医師 がかかりつけ医であり、定期的な往診を受けている。 協力病院とは24時間体制で連携を取っており、全面 的に協力してくれる。また、職員に看護師が配置され ており、日常の健康管理もされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 看護職員を常勤職員として配置しており、また各職種 が協力し、異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期 に主治医の診察が受けられるよう心掛けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入居者が入院した場合でも、面会、様子観察を頻回に 行うようにし、適時、家族、医療スタッフ、主治医と の話し合いも行うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 特変があればその都度家族に連絡し、早めに病院受診 を行うようにしている。当事業所では、様態に応じて 医師を交えてカンファレンスを行うようにしている が、看護職員も1名しかおらず、現時点でのターミナル ケアは不可能な事が多いと思う。	
			<p>(外部評価)</p> 入居時に「看取りの指針」を説明し同意を得ている。 さらに、状態の変化に応じて家族と相談を行ってい る。必要に応じて医師や看護師、職員と連携を密に取 り、話し合いを重ねながら終末期のケアに対応してい る。また、管理者は職員に対する精神的なケアを行う よう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けるようにしている。また、必要であれば母体施設の協力も得られるようにしている。カンファレンスの時には個々の対処法を看護師が具体的に指導するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 瑞鳳荘、防災マニュアルを作成している。また、年2回防災、避難訓練を実施している。今年度は、平成23年1月14日に今治市消防団玉川方面隊第2分団畑寺班立会いのもと避難訓練と施設内消防設備点検を行う予定である。 (外部評価) 年2回のうち1回は夜間想定での避難訓練を、同法人の施設と合同で行っている。地域の消防団やそのOBの協力も得ることができ、避難場所や備蓄品も確保できている。ホーム独自の連絡網と、隣接する同法人の施設を含めた緊急連絡網を作成している。地震対策として家具などの固定をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の生活歴などを十分に把握し、個々の状態に応じたケア、対応を実施している。また、職員間での介護等での相談、助言、忠告は都度実施するようにしている。個人情報の取り扱いについても、日頃より十分に注意し、採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 個人情報の保護の重要性をスタッフ全員が認識している。個人情報の取り扱いについて、家族と同意書を交わしている。同性による介護を基本としており、特にトイレや入浴の介助には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の生活リズムにあわせ、出来る限り自由な時間の入浴を実施している。また、買い物や外食の機会も多くとるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所として一応日単位、週単位のスケジュールはあるが、日々の業務の遂行より、入居者のペースを優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒にその日着る服を選び用意するようにしている。理容、美容についてはライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ等が受けられるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員（栄養士を交え）と入居者が何を食べたいか話し合い献立を立てている。職員、入居者が一緒に食事をし会話を楽しみながらゆったりとした食事摂取の時間と、自主的な下膳を心掛けている。 (外部評価) 法人内の栄養士が、栄養バランスに配慮して献立を立てている。利用者の機能に応じて刻み食やお粥を準備しており、全員がゆったりと楽しそうな雰囲気の中で食事ができている。ユニットで調理を分業しており効率よく準備されている。また、外食に出かけることもあり、利用者の楽しみの1つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者のその日の状態に応じて、食事の形態を変更し提供できるようにしている。また、食事、水分摂取表にてチェックし記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、寝る前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い、異常があれば早期に歯科受診をするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、失禁前のトイレ誘導を実施している。また、ポータブルトイレ使用者も日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄状況が記載されており、トイレ誘導など状態に応じた支援が行われている。水分補給にも気を付けており、お茶を利用者ごとのボトルに入れて自由に水分補給ができるよう準備している。水分摂取量の少ない利用者には、声かけをして水分摂取を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や運動はもとより、主治医と十分相談し、内服薬の正確な服用や薬剤の副作用にも十分注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日や時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し好きな時間に入浴が出来るようにしている。入浴拒否が多い方についても随時声かけし入浴を勧めている。	
			(外部評価) 基本的には利用者の好みの時間帯に合わせて入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者に対しては、タイミングを見て声かけしたり、職員が交代して誘うなど工夫をしている。利用者同士の声かけもあり、ゆったりとした気分で入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごしていただくよう促し、可能な限り戸外での活動や散歩なども実施している。また自分のペースで生活が送れる様、昼の間（職員室）も開放している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理、投薬を行い、介護職員が内服確認をしている。また、職員全員に副作用など説明しており、特変があれば速やかに看護師、医師に相談するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯や掃除は共に行うにし、菜園での農作業なども出来る限り手伝ってもらっている。また、職員指導による小物制作クラブもある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などは行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事にも出かけている。	
			(外部評価) 気候がいい時期には、ホームの庭に出ておやつを食べたり、日向ぼっこを楽しんでいる。ホームの周辺の安全な散歩道を車いす利用者と共に散歩し、気分転換を図っている。また、畑では季節の野菜が作られており職員と共に楽しみながら世話をしている。花見などの外出もよく行いみんなで楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は小額としているが買い物の際などは預かり金を本人に手渡し支払ってもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロアー内に公衆電話がありいつでも利用できるようにしており、入居者からの要請があれば都度ダイヤルの介助も行っている。また、ハガキや便箋の購入や投函手渡しも都度行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスにはカーテンをつけている。（以前は手作りの暖簾であったが消防署の指導により現在は防災の物に取り替えている）またフロア内には花壇の花を生けていたり、入居者手作りの小物を飾ったりしている。	
			(外部評価) 広い居間からは田畑と美しい山並みを見渡せ、四季折々の移り変わりを感じ取ることができる。ホーム内には観葉植物や花が飾られ、季節に応じた飾り付けがされている。また、加湿器が設置され、湿度や温度の管理もされており快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人になれたり、少人数の集まり場所としては、フロア内にソファを置いてある。また職員室は昼の部屋であり、自由に開放しているのでみんなの集いの場所となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長年使い慣れているダンスやソファ、家族の位牌、仏壇だけでなく、動物の縫いぐるみなど自由に持ち込んでもらっている。	
			(外部評価) 各居室の入り口には分かりやすく氏名が書かれている。ベットや洗面台が備え付けられ、各自の好みに合わせて、花を飾ったり、手作りの作品や写真、お気に入りの置物などを置き、利用者それぞれに合った個性的な居室空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保の為に手すりが設置してあり、必要以上の物を置かないようにしている。また屋外に庭園、菜園があり、ガーデニングや野菜作りを皆で行っている。	